

金山町立金山中学校 第13号

学校だより

令和6年3月1日発行
発行責任者:金山中学校長

令和5年度 第2回生徒会総会 が開催されました

2月29日(木)に令和5年度第2回生徒会総会が行われました。総会では生徒会執行部、各専門委員会、各部活動の代表生徒より、今年度の活動報告及び反省・改善点が説明されました。それらに対して「〇〇なので〇〇してほしい」「この活動は〇〇した方がいいのではないか」という要望が多数出されるなど、生徒一人一人が生徒会活動を自分事として捉える前向きな姿が見られました。生徒会活動の目的は、生徒の主体的な活動によって学校生活の向上を目指すとともに、活動をとおして民主的な学校と学級の建設に励み、社会に踏み出す基礎を形成することにあります。まさに目的に迫る、生徒の主体性が十分に発揮された総会でした。3年生から後輩への想いがたくさん込められた今回の内容を次年度に活かし、より良い学校生活にするためにはどうすればよいか全校生徒一人一人が考え、行動に移し、生徒自身の力で金山中学校の新たな歴史を創り上げていってほしいものです。



全会津ジュニアバドミントン大会 女子ダブルス入賞

2月18日(日)に標記大会があいづ総合体育館で開催され、本校からは女子ダブルスBグループに2チームが出場しました。1年生、2年生それぞれでダブルスを組み、上位入賞を目指して取り組んだ結果、見事好成績を収めることができました。ダブルスの試合は初めてでしたが、部活動や昼休みの時間などを利用し、コツコツと練習を積み重ねてきた努力が形になって現れました。創部3年目の本校バドミントン部ですが、新たな歴史を少しずつ刻んでいます。

大面 彩可(2年)・須佐 なつ(2年) ペア 女子ダブルスB 準優勝
大面 梓未(1年)・諏江 楓(1年) ペア 女子ダブルスB 第3位



避難訓練に基づく主体的な判断と行動が多く命を救った

東日本大震災から13年を迎えます。震災は、私たち一人一人が日常における安全への取り組みをはじめ、生きることの意義など、急速な社会の変化で見落としがちで多くのことがらを見つめ直す機会を与えてくれました。

今回の震災で被災された多くの学校で代え難い命を救ったのは、子どもたち自身の判断と素早い避難行動であることが明らかになりました。震災前、多くの学校の避難訓練では、放送をよく聞き、指示に基づいて安全に避難することが重点でした。そこでは、避難の過程で自ら考え判断することは、それほど強く求められない状況がありました。しかし、震災により、停電で避難放送もできず、また、津波も予想をはるかに上回り、通常の避難方法や場所等の問題点が浮かび上がりました。そのようななか、釜石の小学校では下校後の地震発生によって誰の指示もなく、自ら考え、判断し、安全に避難しなければならない状況であったと報告されています。一人で自宅から自主的に避難場所に避難した子。揺れが収まっても避難しない家族を説得して避難した子。また、避難場所を巡って意見が分かれながらも安全を優先し、釣りをしていた岸壁から高台に避難した同級生の仲良しグループなど、日頃の避難訓練で学んだことを生かして身に付けた主体的な判断と行動が多く命を救ったのです。

知識としての安全を受け身ではなく、自分の命を守り、さらに社会の一員として意識して行動した結果、多くの命が失われずに済んだのです。「助けられる人から助ける人へ」の転換は、一人では生きられない人間にとって私たちの生き方そのものにも関わることです。それだけに、学んだことを日々の生活に生かすことが、学校だけでなく生活の拠点である家庭地域においても求められます。

